

## 摘 要

作为社会中的一员，我们每个人并不是孤立存在的，而是每时每刻都在进行着各种各样的社会活动。在日常生活中，时常要拒绝别人的请求或劝诱。而在这种情况出现的时候，选择什么样的措辞，运用怎样的语言表达方式，会给对方留下完全不同的印象。在各种发话行为当中，最难使用的之一就是违反对方的愿望和意图的拒绝语言表现行为。所以人们在拒绝对方的时候，必须慎重选择表达方式。特别是在进行国际交流时，因文化差异所带来的语言表现的不同，无论是对日语学习者来说还是对汉语学习者来讲都是必须要掌握的。

本稿通过书面问卷的形式，对中日两国大学生的“拒绝”表现的相同点和不同点进行了调查和比较。

本稿主要有五部分构成。在绪论部分，介绍了本稿的研究目的和意义以及文章的结构。第一章综述了“拒绝”表现的先行研究结果，总结整理出最新研究的方向及问题点，并介绍了本稿的研究对象和研究方法。第二章阐述了本稿的理论依据和文章的核心论点，主要参考了 Brown 和 Levinson(1987)的礼貌原则及 Beebe et al.(1990)、熊井(1993)和藤森(1994)等人的意味公式，给出心理困难度的定义。第三章首先介绍了调查的概要、时期、对象、内容、方式以及目的，并根据调查所得数据进行比较分析。主要从意味公式的使用频率和ポライトネス的关系、意味公式使用个数的多少、作出拒绝选择时心理困难度的大小、以及意味公式使用个数和拒绝心理困难度的关系四方面进行比较分析。因亲疏关系的不同意味公式使用个数有所不同，拒绝时心理困难度和亲疏关系也有一定的关联，但中日两国大学生在某些程度上又有所不同。整体来看可以说心理困难度越高意味公式使用个数就越多。结论部分是本稿总结和今后的课题。

关键词：拒绝；礼貌原则；面子；意味公式；心理困难度

## 要 旨

我々人間は、独立して存在するわけではなく、それぞれが社会の一員として刻々と複数社会活動を行っている。そのため、日常生活においては、「依頼」、「誘い」、「提案」、などといった相手の要請を場合によっては断らなければならない状況に直面することも避けることはできない。コミュニケーションの中では、言葉遣いや言語表現をどのように選択するかによって、相手に伝わる感覚や印象などは全く異なる。様々な言語行為の中で、相手の望みや意図に反さざるを得ない「断り」発話行為は人間にとって使いづらいものの一つであろう。そのため、人間は「断り」発話行為をする時、より慎重に表現を選択しなければならない。特に、異文化コミュニケーションの上では、文化に基づく表現上の差異を日本語学習者も中国語学習者も塾知しておく必要がある。

本稿は質問紙によるアンケート調査を行い、中国人大学生と日本人大学生の「断り」表現における相違点と共通点を明らかにする。

本稿は主に五部分から成っている。各章の概要は以下の通りである。

「はじめに」の部分で本稿の研究目的と意義、及び本稿の構成などを具体的に示した。

第一章は「断り」の言語行為についての先行研究と問題点、及び本稿の研究対象と研究方法について述べた。

第二章は本稿の枠組みと本稿の位置付けである。主に、ポライトネス理論と意味公式及び心理困難度三つの方面について述べた。ポライトネス理論は Brown & Levinson(1987)によって研究された理論である。「意味公式」は Beebe et al. (1990)や熊井(1993)や藤森(1994)などの「意味公式」の分類を参考の上、若干修正を加えて、整理したものである。心理困難度とは当該場面に対する捉え方、つまり、相手に断る難しさを指す。更に、「断り」の心理の度合いは心

理困難度、その数値は心理困難度数と呼ぶよう設定した。

第三章は本稿の柱となる部分である。まず、調査の概要について説明し、調査時期、調査対象、調査内容、調査方式、調査目的、場面の設定などを挙げた。更に、調査のデータをもとに、分析・比較を行った。具体的に言えば、「断り」の場面における意味公式の使用頻度とポライトネスとの関係の考察、「断り」の場面における意味公式の使用個数の比較、「断り」の場面における心理困難度の比較、「断り」の場面における意味公式の使用個数と心理困難度との関係、という四つの方面から、中日両国の大学生の「断り」の場面における言語行為を対比・研究した。

「終わりに」部分では本稿で論じた問題をまとめた上で、今後の課題について言及した。

本稿を通じて、中国人と日本人との間の異文化コミュニケーションを更に円滑にすることが可能になると共に、中国人のための日本語教育、並びに日本人のための中国語教育の改善に少しでも貢献できれば筆者としてこれ以上の喜びはない。

キーワード：断り、ポライトネス、フェイス、意味公式、心理困難度

# 大连海事大学学位论文原创性声明和使用授权说明

## 原创性声明

本人郑重声明：本论文是在导师的指导下，独立进行研究工作所取得的成果，撰写成博/硕士学位论文“中日拒绝言语行为对照研究”。除论文中已经注明引用的内容外，对论文的研究做出重要贡献的个人和集体，均已在文中以明确方式标明。本论文中不包含任何未加明确注明的其他个人或集体已经公开发表或未公开发表的成果。本声明的法律责任由本人承担。

学位论文作者签名：蔡二勤

## 学位论文版权使用授权书

本学位论文作者及指导教师完全了解大连海事大学有关保留、使用研究生学位论文的规定，即：大连海事大学有权保留并向国家有关部门或机构送交学位论文的复印件和电子版，允许论文被查阅和借阅。本人授权大连海事大学可以将本学位论文的全部或部分内容编入有关数据库进行检索，也可采用影印、缩印或扫描等复制手段保存和汇编学位论文。同意将本学位论文收录到《中国优秀博硕士学位论文全文数据库》（中国学术期刊（光盘版）电子杂志社）、《中国学位论文全文数据库》（中国科学技术信息研究所）等数据库中，并以电子出版物形式出版发行和提供信息服务。保密的论文在解密后遵守此规定。

本学位论文属于： 保 密  在\_\_\_\_年解密后适用本授权书。

不保密  （请在以上方框内打“√”）

论文作者签名：蔡二勤

导师签名：



日期：2010年6月23日

## はじめに

### 1. 研究目的と意義

我々人間は、独立して存在するわけではなく、それぞれが社会の一員として刻々と複数社会活動を行っている。そのため、日常生活で、「依頼」、「誘い」、「提案」などといった相手の要請を場合によっては断らなければならない状況に直面することもしばしば出てくる。このような言語行為の中で、言葉は重要な役割を果たしている。言葉というのは、自分の考え方を相手にうまく伝えたり、コミュニケーションの行動を行ったりする時に使われる道具で、コミュニケーションの媒介になる言葉遣いや表現をどのように選択するかによって、相手に伝わる感覚や印象などは全く異なることなのである。

中国と日本は共に東アジアに属し、文化、言語、歴史などといった様々な面で共通している点が多い。しかしながら、実際、異なった地理的環境、及びその国独特の体制や文化背景のもとで、日本と中国はそれぞれ独自の文化を作り上げてきた。文化的差異のため、コミュニケーション上のトラブルが発生することはよく見られる現象である。言語学習では、文法の習得に限らずその背景たる文化の知識を併せ持つことも重要である。その両者があってこそ、日常生活において、より円滑にコミュニケーションを営むことができるのである。

様々な言語行為の中で、相手の望みや意図に反せざるを得ない「断り」の発話行為は人間にとって使いづらいものの一つであろう<sup>[1]</sup>。なぜなら、「断り」の言語行為は依頼者と断る側の両方のフェイスを傷つけ合う可能性が高く、お互いの人間関係に重要な影響を与えるからである。そのため、人間は「断り」発話行為を行う時、より慎重に表現を選択しなければならない。特に、異文化コミュニケーションにおいては、文化に基づく表現上の差異を日本語学習者も中国語学習者も十分に理解しておく必要がある。

本稿では質問紙調査によるアンケートを行い、中国人大学生と日本人大学生との「断り」表現における相違点と共通点を明らかにした。

この結果を通じて、中国人と日本人との間の異文化コミュニケーションを更に円滑にすることが可能になると共に、中国人のための日本語教育、ならびに日本人のための中国語教育に少しでも貢献できれば幸いであると考えている。

## 2. 本稿の構成

本稿は主に五つの部分から成っている。各章の概要は以下の通りである。

「はじめに」の部分は本稿の研究目的と意義、及び本稿の構成などを具体的に述べている。

第一章は「断り」の言語行為についての先行研究と問題点、及び本稿の研究対象と研究方法について述べている。

第二章は本稿の枠組みと本稿の位置付けである。主に、ポライトネス理論と意味公式及び心理困難度の三つの面である。ポライトネス理論は Brown & Levinson(1987)によって研究された理論である<sup>[1]</sup>。「意味公式」は Beebe et al. (1990)や熊井(1993)や藤森(1994)などの「意味公式」の分類を参考の上、若干修正を加えて、整理したものである<sup>[2][3]</sup>。心理困難度とは当該場面に対する捉え方、つまり、相手に断る難しさを指す。更に、「断り」の心理の度合いは心理困難度、その数値は心理困難度数と呼ぶよう設定した。

第三章は本稿の主体である。まず、調査の概要について説明し、調査時期、調査対象、調査内容、調査方式、調査目的、場面の設定などを挙げる。更に、調査のデータをもとに、分析・比較する。具体的に言えば、「断り」の場面における意味公式の使用頻度とポライトネスとの関係の考察、「断り」の場面における意味公式の使用個数の比較、「断り」の場面における心理困難度の比較、「断り」の場面における意味公式の使用個数と心理困難度との関係、という四つの面から、中日両国の大学生の「断り」の場面における言語行為を対比・研究する。

最後に「終わりに」では本稿で論じた問題をまとめた上で、今後の課題についても言及している。

## 第一章 先行研究と問題点及び研究対象と研究方法

### 1.1 「断り」の言語行為についての先行研究と問題点

言語行為における「断り」は、相手の要求に応じないという否定的な意味表現であるという点から誤解やトラブルを招きやすい。特に、相手の言語文化や対人意識が高くない異文化間のコミュニケーションでは、このようなトラブルが生じる可能性が高い。例えば、日本人と中国人は外見でも非常に似ており、同じ漢字文化圏という先入観のため、本国の方式で行動をとって相手に不快感を与える場合がしばしばある。場合によっては、人間関係を傷つけることもある<sup>4)</sup>。したがって、相手に断る時、人間関係の上において、障害や誤解などのトラブルが生じないように注意を払う必要があると思われる。そのために、「断り」の言語行為の研究が必要なのである。過去に従来はこの分野の研究も少なくない。

(1) アメリカ人英語母語話者・日本人英語学習者を対象とした「断り」の研究

第二言語習得研究における発話行為としての「断り」の研究は様々な側面から行われてきた。中でも、最も大きな影響を与えたのが、Beebe, Takahashi & Uliss-Weltz (1990) である。Beebe 他 (1990) は、日本語母語話者、アメリカ人英語母語話者、日本人英語学習者、それぞれ 20 人を対象に、DCT<sub>[注1]</sub>を用いて、調査を行った。そして、被験者の「断り」を「意味公式 (Semantic Formula)」という単位に分類し、それらを発現順序・発現頻度・内容の三つの観点から分析した。そこで、日本人英語学習者の英語における「断り」をアメリカ人と日本人それぞれの母語による「断り」と比較し、日本人英語学習者が第二言語である英語で断る際、使われている語彙や文型は英語であっても使われる意味公式の種類や頻度、及びその順序が日本語母語話者のそれに近いことを見つけ、これをプラグマティック・トランスファー (Pragmatic Transfer: 語用論的転移) の証拠としている。彼らの調査によると、アメリカ人による「断り」の意味公式

の順序は相手の地位にかかわらず、①積極的な気持ちの表現 ②遺憾 ③言い訳であり、日本人の英語による「断り」の意味公式の順序は、地位の高い人に対しては、①謝罪・遺憾 ②言い訳であり、地位の低い人に対しては、①積極的な気持ちの表現・共感 ②言い訳であった。ここで「言い訳」についての内容から分析すると、アメリカ人が具体的な言い訳をしているのに対し、日本人はかなり曖昧な言い訳をしていることが浮き彫りになった。Beebe 他 (1990) はこのことは、日本の社会的文化規範によるとしている。

Beebe はまた、「断り」の場面での謝罪についても述べている。彼らの調査によれば、日本人は相手の地位が自分より高い場合に謝罪をし、自分より低い場合には謝罪をしないという傾向があった。一方、アメリカ人にはこの傾向は見られなかったという。

#### (2) 日本語母語話者・中国人日本語学習者を対象とした「断り」の研究

日本語における「断り」の言語行為に関する先行研究として、日本人の場合には、生駒・志村 (1993)、森山 (1990)、熊井 (1993)、藤森 (1994) などがある。そのうち、森山 (1990) は、日本語母語話者の「断り」のストラテジーに限って研究した。他の先行研究は中間言語の語用論的研究の視点から、日本語母語話者と日本語学習者との比較研究である。研究方法としては、調査紙を用いた談話完成テスト (DCT)、実際の会話を録音したテープをデータとして用い、「断り」を意味公式によって分析するというのが一般的である。

生駒・志村 (1993) はアメリカ人日本語学習者の日本語による「断り」の中に、意味公式の発現順序では、英語から日本語へのプラグマティック・トランスファーの現象が見られなかったが、意味公式の発現回数や内容においては、幾つかのトランスファー現象が見られ、中でも有害なトランスファー、即ち、それを行うことにより、相手に失礼だと誤解を与える可能性のあるトランスファーを何点か指摘した<sup>[5]</sup>。

藤森 (1994) は日本語母語話者と中国人日本語学習者を対象として、関係修復の観点から「断り」の意味内容を検討した。



中国人の先行研究者としては、馬場・禹永愛（1994）、謝芳（2004）、施信余（2005）、文鐘蓮（2006）などが挙げられる。

馬場・禹永愛（1994）は、日本語と中国語の「断り」表現について、依頼内容と親疎関係を考慮しながら、日本人学生と中国人留学生を対象としたアンケート調査に基づいて、「間接的な断り」表現の現れ方を調べた。その結果は以下ようになる。中国人留学生の場合は、親しい関係にある人に対して、主に「願望」「理由」「謝罪」「代案提示」の表現が少なくなっており、相手に共感を示しつつ積極的に働きかけるという熱意を示すことに重点が置かれている。一方、親しくない相手に対して、「理由」「謝罪」の表現が最も多く現れており、次いで「代案提示」の表現も少なくなっている。日本人学生のように、言葉遣いに気を配り、丁寧表現を多く用いているような配慮が見られず、比較的気軽に断っている、と述べられている<sup>[6]</sup>。

謝芳（2004）は日本人と中国人を対象として、両国人の「断り」の表現における、意味方式の出現順序、出現頻度、出現数や文末表現や「断り」表現異同の社会文化要因などについて検討した<sup>[7]</sup>。

施信余（2005）は日本人同士と台湾人同士の自然会話における依頼に対する「断り」を談話レベルから分析し、日本人と台湾人が断るときの言語行為の共通点と相違点を検討した。しかし、調査の対象は日本人・台湾人いずれも、全員女性である<sup>[8]</sup>。

文鐘蓮（2006）は、日本語母語話者と中国人日本語学習者を対象として、「断り」表現の発話が行われる場面、物事の利益・負担度及び緊急度によって意味公式の出現順序も違い、また「断り」表現の文末に濁し現象が現れることを主張した<sup>[9]</sup>。

### (3) 日本語母語話者・韓国人日本語学習者を対象とした「断り」の研究

日本語母語話者・韓国人日本語学習者を対象とした「断り」の研究が近年、大量に出てきた。主に任炫樹（2000、2003、2004）、元智恩（2002、2003）、最近、この分野において大活躍している権英秀（2007、2008）などがある。

任炫樹（2000、2003、2004）は日本語と韓国語における「断り」談話の開始がどのようなマーカーによって標示されるかを相槌的な発話を中心に考察し、日本語と韓国語の傾向を比較検討した。そして、日本人と韓国人のウチ・ソト・ヨソ意識が「断り」の言語行為にどう影響しているかを明らかにした<sup>[10]</sup>。

元智恩（2002、2003）は韓国人と日本人を対象として、文末表現・中途終了文・意味公式の三つの方面から韓国人と日本人の「断り」言語行為の相違点、及び共通点を比較・分析した。日韓両言語共に配慮度、間接度、親近度は場面による違いは見られないが、距離度、改まり度は場面による違いが大きいという結果を得た<sup>[11][12]</sup>。

権英秀（2007）は日本人と韓国人の「断り」を比較し、常に日本人の方が間接的な「断り」を取るという既存のステレオ・タイプを否定している。新聞販売員が初対面の人に対する例を挙げると、日本人の方が韓国人より一層「断り」の意向をあからさまに表していることが分かった。長い間、定説であった日本人固有の「日本人は間接的な言い方を好む」を否定する立場から研究した<sup>[13]</sup>。

権英秀（2008）は日本人大学生と高校生を対象として、年齢層の差の視点からポライトネスを中心にして分析した。日本人大学生も、高校生も家族と親しい先輩に対して、「断り」の意味を表す「直接的断り」を用いず、「代案提示」「非難」などによって、相手に間接的に「断り」を伝えている。しかし、大学生の方が「直接的断り」である自分の *negative face* と似た *negative face* を多く使用し、高校生より直接的な「断り」を多く使用することが見られるということ述べている<sup>[14]</sup>。

以上の先行研究で過去の成果について検討したが、本稿では、単一の「意味公式」、或いはポライトネスのみを用いて研究した。従来の研究では、意味公式とポライトネスとの関連を積極的に扱っているものは少なく、ポライトネスの影響による「断り」の場面での心理困難度の研究も少ないという傾向がある。

## 1.2 研究対象と研究方法

本稿では、以上のような先行研究を踏まえつつ、中日両国の大学生を対象にし、アンケートを行い、その調査結果をもとに、「断り」四つの場面において、「断り」の場面における意味公式の使用頻度とポライトネスとの関係、「断り」の場面における意味公式の使用個数の比較、「断り」の場面における心理困難度の比較、「断り」の場面における意味公式の使用個数と心理困難度との関係という四つの面から、中日両国の大学生の「断り」における言語行為の比較・対照をし、両者はどのような相違点と共通点を持つのか明らかにした。

## 第二章 本稿の枠組みと本稿の位置づけ

### 2.1 本稿の枠組み

#### 2.1.1 ポライトネス理論

円滑なコミュニケーションが今や世界の課題となっている。そのためか、ポライトネスの研究は世界中でなされている。とりわけ、1970年代後半から、語用論の分野でポライトネスに対する関心が非常に高まり、ポライトネスの理論は語用論の一部門であると見做し得るほどになってきた<sup>[16]</sup>。日本語でも少なくとも研究者の間では、カタカナで「ポライトネス」と書いており、あたかもこの概念が日本に馴染んでいるように見受けられる。中国語でも「礼貌原則」という専用名詞が言語学の分野では幅広く使われている<sup>[16]</sup>。

##### 2.1.1.1 ポライトネスとは

ポライトネスという概念を分かりやすく表現すると、ちょうど「高い」という形容詞に対して「高さ」という名詞があるように「ポライト」に対して、その抽象概念を表す「ポライトネス」がある。「このビルの高さは高くない」と言えるように、高くないものも「高さ」の中に入る。「広さ」についても同様なことが言える。「うちのマンションの広さと言え、それは狭いのよ」と言っても、矛盾した文にはならない。広くなくても「広さ」という言葉が使える。「高さ」「広さ」という名詞はその概念の大きいものにも小さいものにも使える。「ポライトネス」という言葉についても、これと同じように考えることができる。つまり、「ポライトネス」を英語で表現すると *polite* も *impolite* も含む概念である。そのため「ポライトネス」というものさしは両極端を含んでいる。*polite* と *impolite* の中間にある概念は *nonpolite* であり、それは「ポライトネス」に関して中立的な概念である<sup>[17]</sup>。

「ポライトネス」は一般的にはこのように考えることができるが、「ポライトネス」が語用論の分野で論じられる時、学者たちは各人それぞれ独自にポラ

イトネスを定義して論を始めている。The logic of politeness 「ポライトネスの論理」(1973)でこの語用論におけるポライトネスの研究の口火を切ったR・レイコフは1975年の論文で「ポライトネスとは会話において衝突のリストを最小限にする方法である」と定義している。フレーザーとノーレン(1981)は「ポライトであるということは、人間関係のルールを我慢して受けることだ」。そして、「話し手が契約に違反した時に impolite となる」と述べている<sup>[18]</sup>。最も大きな影響力を持つポライトネスの包含的な理論を打ち出したのは Brown & Levinson であると言われる。彼らは1987年に再出版された本のイントロダクションの中で、ポライトネスについて「ポライトネスとは人々を扱う特別な方法であり、相手の気持ちを取り入れた特別な言い方をすることだ」と述べている。また、北尾(1988)によれば、「ポライトネスはコミュニケーションにおいてお互いの人間関係をより円滑にし、効果的なコミュニケーションを行うためのストラテジー(手段)であり、コミュニケーションの相手と親密な関係を保ち、相手に負担をかけないようにして所期の目的を果たす手段で、コミュニケーションにおいて重要な役割を果たしている」と定義している<sup>[19]</sup>。このように、研究者によって、ポライトネスに関する様々な定義が行われているが、これらをまとめると、ポライトネスとは相手のフェイスを脅かさないようにして、コミュニケーションを円滑に行うのに適切な言語使用と行うことができよう。

### 2.1.1.2 フェイスとは

ポライトネス研究には、ポライトネスの原則に沿った言語使用がポライトネスを表すと捉える「会話の公理」の立場(Lakoff1973、Leech1983)、会話参加者が、特定の状況で義務を果たすことがポライトネスを表すと捉える「会話の契約」の立場(Fraser1990)、他人によく思われたいという「ポジティブ・フェイス」と、他人に行動の自由を邪魔されたくないという「ネガティブ・フェイス」を保持することがポライトネスを表すと捉える「フェイスの保持」の立場(Brown & Levinson1987)などがある。

Brown & Levinson のポライトネスの学説の根幹を成すものは、ゴフマン(1967)によって、提唱された「フェイス」という概念である<sup>[20]</sup>。「評判 (reputation)」や「名誉 (good name)」といった意味で face という語が英語で始めて用いられたのは 1876 年に arrangements by which china has lost face という表現で、中国語の「丢脸」の訳として使用されたものと思われる。それ以来、face は losing face とか saving face といった表現で広く用いられてきた<sup>[21]</sup>。

They have got to save face. Saving face is the strongest motive in the world.

Brown & Levinson はゴフマン(1967)が提唱した「フェイス(face)」の概念を利用して、二つの「フェイス」である positive face(積極的フェイス)と negative face(消極的フェイス)に分けて分析している。

表 2.1 フェイスの定義(Brown & Levinson の定義)

○ : negative face :the want of every 'competent adult member' that his actions be unimpeded by others. 相手から邪魔されたくない・自分の自由や領域を脅かされたくないという気持ち
○ : positive face : the want of every member that his wants be desirable to at least some others. 相手から認められたい・好かれたい・よく見られたいという気持ち

このようなフェイスに対して、「相手のフェイスを脅かすか否か」ということを発話行為の枠組みと、「ある種の行為は本質的にフェイスを脅かす恐れがあるため、それを和らげる手段が必要である」というポライトネスの理論に基づいて研究がされている<sup>[22]</sup>。つまり、人間は発話行為において、相手の positive face や、negative face も傷つけたり、破ったりすることがあり、逆に自分の positive face や、negative face を傷つけたり、破ったりすることもあるとされる。このように言語行為には相手と自分のフェイスを傷つけたり、脅かすものがあり、Brown & Levinson は彼らのポライトネス理論において、フェイスを脅かす行為 (face-threatening acts:FTA) という概念を導入している<sup>[23]</sup>。

### 2.1.1.3 FTA 及び FTA を行う際のストラテジー

人間の日常生活のコミュニケーションではこのようなフェイスを傷つける場面がしばしば発生する。相手と自分自身のフェイスを脅かす行為 (Face-Threatening Acts : FTA) の可能性を少なくするために、会話の参加者は何らかのストラテジー (strategies) を用いることができる。どのストラテジーを選ぶかは、話し手がそのフェイスを脅かす行為の大きさをどう判断するかによって決まり、支配力 (p)、相手との距離 (d)、負担の大きさ (r) という要素を基にして、FTA の大きさを測定する。

Brown & Levinson (1987) はこれを以下の公式で示している。

$$W_x = D(S, H) + P(S, H) + R_x$$

$W_x$  (weightness) : FTA の度合い

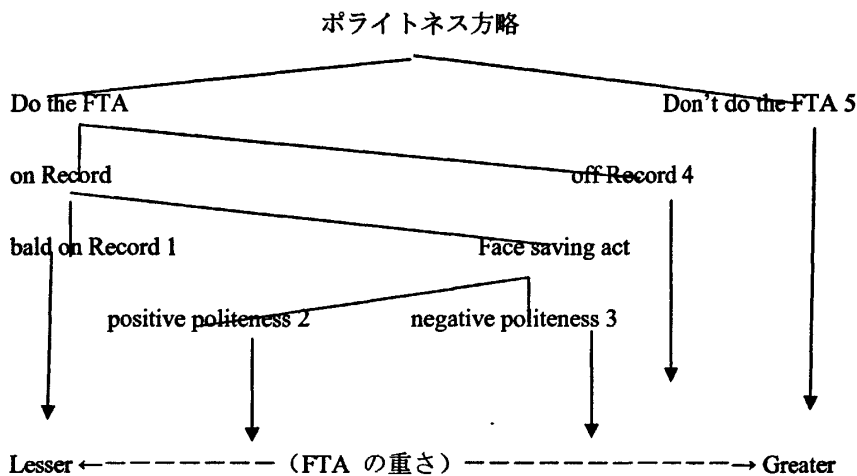
$D$  (distance) : 話し手 (speaker) と聞き手 (hearer) の「社会的距離 (D)」

$P$  (power) : 聞き手 (hearer) の話し手 (speaker) に対する「力 (P)」

$R_x$  (ranking of imposition) : 特定の文化で、ある行為 (x) が聞き手にかける「負担の度合い」<sup>[24]</sup>

上記の公式によると、「フェイスを脅かす度合い」が決定され、使用可能なストラテジーが選択される。つまり、ある行為の  $W_x$  は「ヨコの人間関係」における話し手と聞き手の「社会的距離 (D)」、「タテの人間関係」における聞き手の話し手に対する「力 (P)」、そして、 $x$  という行為がその文化内でどの程度の負荷になると見なされているかの「 $R_x$ 」、という三要素が加算的に働いて決まってくるのである。Brown & Levinson (1987) は「フェイス」を脅かす場合のストラテジーを下記の表 2 で示している<sup>[25]</sup>。

表 2.2 FTA を行う際に使用可能なストラテジー (Brown &amp; Levinson, 1987)



「フェイスを脅かす度合い」を決める上記の公式によると、「力」「社会的距離」「負担の度合い」の合計が大きいほど、「フェイスを脅かす度合い」が高くなる<sup>[26]</sup>。そして、「フェイスを脅かす度合い」が高いほど、図の大きい番号のストラテジーが選択される。例えば、「フェイスを脅かす度合い」が最も高いときには、「5. FTA をしない(Don't do the FTA)」ストラテジーが選択される。逆に、「フェイスを脅かす度合い」が低いほど、図の小さい番号のストラテジーが選択される。例えば、「フェイスを脅かす度合い」が最も低いときには、「1. 何も緩和策を講じずにあからさまに(without redressible action, baldly)」のストラテジーが選択される。

「1. 何も緩和策を講じずにあからさまに(without redressible action, baldly)」聞き手のフェイスを守ることをせず、単刀直入にものを言わせるストラテジーである。例えば、何らかの緊急事態(火事、地震)とか、大きな時間的制約(国際電話をかける時)とか、回線の制約の場合である。このような状況では、最良の効率で話すことが求められ、話し手はそのメッセージの意味内容に集中し、それを言う際の聞き手との人間関係という側面にはあまり注意が払われないことが多い。



「2. ポジティブ・ポライトネス(positive politeness)」は、他人によく思われたいという「ポジティブ・フェイス」を満たすために、相手を褒めたり、仲間内の言葉や愛称などを使ったりして親近感を示すストラテジーである。この点はリーチのポライトネスの原則とよく似ている。例えば、「同意点を探せ」「不一致を避けよ」「楽観的であれ」「同情を示せ」などである。

「3. ネガティブ・ポライトネス(negative politeness)」は、他人に行動の自由を邪魔されたくないという「ネガティブ・フェイス」を満たすために、敬意を示したり、聞き手の負担を最小限にしたりして、干渉されたくないとか、抑えつけられたくないといった欲求に向けられている。

「4. オフ・レコード(off record)」は、言いたいことをはっきり最後まで表さないで省略したりして、その行為をしていることを明確に示さないストラテジーである。これらには、「ほのめかす」、「比喩を用いる」、「曖昧にする」などが含まれている。

「5. FTA をしない」は「フェイスを脅かす度合い」が非常に大きいので、敢えてFTA をしないということである。

権英秀(2007)の「断り」の言語行為の研究では、「断り」において、positive face とnegative face を同時に組み合わせたフェイス相互作用によって「断り」を遂行しているとしている。フェイス相互作用とは、言語行為の中から現れるフェイスの組み合わせである。この研究に基づいて、権はフェイス相互作用について次のように分類した<sup>[27]</sup>。

表 2.3 フェイス分類法 (権英秀 2005)

フェイス	定義	
selfish-face or speaker's face	発話の中で、話し手のフェイスのみを考慮した場合。	positive face : 相手から認められたい・好かれたい・よく見られたいという気持ち
		negative face : 相手から邪魔されたくない・自分の自由や領域を脅かされたくないという気持ち
		semi face : positive face + negative face

mutual face	発話の中で、相手のフェイスを考慮しながら話し手自分のフェイスも考慮した場合	聞き手と話し手のpositive face を同時に考慮する。
		聞き手のpositive face +話し手の negative face
		話し手のpositive face +聞き手の negative face
		聞き手と話し手のnegative face を同時に考慮する。
hearer's face	発話の中で、話し手のフェイスを抑えて相手のフェイスを主に考慮した場合	positive face
		negative face
		semi face

本稿では権のフェイスの分類法にしたがって、中日両国の大学生が「断り」の場面においてどのようにフェイス相互作用を行うかについて比較・分析した。

### 2.1.2 意味公式とは

「意味公式」は Beebe et al. (1990)によって提案された、「断り」をより細かく分類した「断り」のストラテジーである<sup>[28]</sup>。藤森 (1995)によれば、これは「幾つかの発話が集まって一つの行為を遂行する場合の発話のまとまり」の「構成単位」で、「発話を社会的相互作用の中で見た場合の言語行為具体化のための最小の機能単位」である。「意味公式」の分析方式は多くの研究者が使用した事実が示すように、「断り」の表現の分析には欠かせない分析法である。本稿では、Beebe et al. (1990)や熊井(1993)や藤森 (1994)などの「意味公式」の分類を参考の上、若干修正を加えて、以下のように分類した。

表 2.4 本稿の意味公式

意味公式分類	意味公式の内容	日本語例文	中国語例文
「直接的断り」	単刀直入に断るもの	いいえ/できない/したくない/そうは思わない	不行。不可以。
「理由」	断らざるを得ない状況を説明する	お金がないから/試験があるので	没有钱。我要考试。要做作业呢。
「謝罪」	「断り」に対するお詫び	ごめんね/すまない/悪いな	对不起。不好意思。

「回避」	冗談・繰り返し・話題転換・沈黙など	ちょっとあれなんだね	嗯。
「共感」	他人の体験する感情や心的状態などを自分も感じ、理解できる	あなたが大変な状況にいるのは分かるんだけど	知道你很为难。
「非難」	相手や要求内容について責める	どうして？/なんでそんなに使ったの？	为什么又是我？
「関係維持」	相手との関係を維持したい旨の働きかけ	次回は行きます/ また今度ね/ 次は出席します	下回帮你。
「代案提示」	代替りの案、他の提案を出す	Y の代わりに、X ができる	让哥哥去吧。
「情報」	相手の発話内容を確認する	今からですか/ 何時から？/ 明日まで？	明天啊。
「条件」	「断り」の留保	時間があれば行きます/ レポートを書いてから…	你多给零花钱我就去。
「その他」	上記に該当しないもの	ちょっと…/ あのう…/ えーと	恩，那个……

### 2.1.3 心理困難度とは

「断り」とは相手(依頼者・要求者など)の意図に応じず、断る側の領域を守る発話行為である<sup>[29]</sup>。したがって、「断り」という発話は相手(依頼者・要求者など)との人間関係に影響を強く及ぼしやすい。そのため「断り」の表現をしづらい、また「断る」の場面に接したくない、難しい、などと思うかもしれない。しかしながら「断り」の言語行為を研究する際、「断り」の心理困難度を研究する重要性は大きいと言える。

「心理困難度」とは当該場面に対する捉え方、相手に断る難しさを指す。本稿では、「断り」の心理の度合いを心理困難度、その数値を心理困難度数と呼ぶ。調査では「断り」の心理困難度に四つの段階（「全く難しくない」「あまり難しくない」「やや難しい」「大変難しい」）に設定した。それぞれに1点、2点、3点、4点と点数を与え、得点の平均値を各場面の「断り」の困難度値とした<sup>[30]</sup>。

表 2.5 「断り」場面心理困難度の設定

全く難しくない	あまり難しくない	やや難しい	大変難しい
1点	2点	3点	4点

## 2.2 本稿の位置づけ

以上の研究から、「断り」の分析方法には Beebe at al. (1990)の「意味公式」が複数の先行研究で用いられてきたのが分かる。しかし、日常生活においては会話参加者の依頼、誘いを断ることは、相手に逆らうことになるため、会話参加者のフェイスを傷つけかねない。会話参加者のフェイスを保持するためにも、ポライトネスは要求されるものと思われる。そのために「断り」についての分析に近年、ポライトネス理論を用いる研究者が増えている。しかしながら、従来の研究では、意味公式とポライトネスとの関連が積極的に扱われているものが少なく、ポライトネスの影響による「断り」の場面における心理困難度を研究しているものも少ない。本稿では、先行研究を踏まえて、「断り」の四つの場面において、「断り」の場面における意味公式の使用頻度とポライトネスとの関係、意味公式の使用個数の比較、心理困難度の比較、意味公式の使用個数と心理困難度との関係という四つの面から、中日両国大学生の「断り」場面における言語行為を対比・研究するものと位置づけることができる。

### 第三章 調査データの比較分析

#### 3.1 本調査の概要

データ収集として、本稿ではアンケート調査を利用した。社会的変数のバランスが取れる実態調査を行うことが難しいこと、条件のそろった回答者から短期間のうちに大量のデータを集められることがアンケート調査の利点である。ただし、コミュニケーションとは相手がいて初めて成り立つものであり、アンケート調査から得たデータはインタビューからのデータと比べ、自然さという点で限界があることを欠点として指摘しておかなければならない。

データ集計方法：

データ集計方法は前述したように、質問紙を用いて調査する方法で行った。アンケートは日本語で書かれた質問には日本語で回答してもらい、また、中国語で書かれた質問には中国語で回答してもらった。

調査時期：

日本 2009年10月～2009年11月

中国 2009年11月～2009年12月

調査対象：

日本 金沢大学50名（医学部17名、人間社会学部22名、自然科学研究室11名）

中国 平頂山学院外国語学院50名

被調査者の人数、性別と年齢については表6のとおりである。

表 3.1 被調査者の詳細

国家	人数		年齢
中国	男性 13 名	女性 37 名	19 歳～23 歳
日本	男性 26 名	女性 24 名	18 歳～23 歳

調査内容：

「断り」の表現を誘発すると予想される四つの場面を設定し、これらの場面で、どのような言語表現を使うかとその際の心理困難度を被験者に書き込んでもらった。

調査方式：

アンケート紙面調査

調査目的：

中日両国の大学生の「断り」の言語行為を考察するに当たって、相方の言語では具体的な場面においてどのようにして「断り」をするのか、どのような言語行為を取るか、また、その際の心理困難度などを知ることが目的である。

場面の設定：

まず、「断り」の場面における言語行為を分析するために、三宅の分類法<sup>〔注2〕</sup>に従い、そのうち、「ウチ」は家族関係と親しいグループの二つに分けて四つの場面に設定した<sup>〔31〕</sup>。表3.2のとおりである。場面①は家族に断る場面であり、場面②は親しいグループ、場面③は親しくないグループ、場面④は知らないグループにそれぞれ断る場面である。

表3.2 調査場面の構成表

親疎関係	場面
ウチ	家族の関係 (場面①)
	親しいグループ (場面②)
ソト	親しくないグループ (場面③)
ヨソ	知らないグループ (場面④)

### 3.2 「断り」の場面における意味公式の使用頻度とポライトネスとの関係の考察

本稿は「断り」に対する戦略は言語社会ごとに異なるであろうと予測し、多様な「断り」の場面を設定して、中日両国の大学生を対象に、アンケ

ート調査を行った。調査したデータに基づき、中日両国の大学生の「断り」表現で、どのようなフェイス相互作用が表れるか、「意味方式」の使用頻度とポライトネスとの関係を明らかにし、更には両国の大学生間の「断り」表現における相違点と共通点をも計量的に把握し、比較対照・研究をした。

### 3.2.1 家族に対する中日両国大学生の「断り」

家族から「帰る途中、味噌やキムチなど、買って来てくれない」という依頼を受けた時、日本人大学生と中国人大学生は次のようなフェイス相互作用によって「断り」を遂行している。表 3.3 にて図示する。

表3.3 家族に対する中日両国の大学生の「断り」の調査結果

	直接的断りのみ	selfish-face			mutual face		hearer's face
		positive face	negative face	semi face	相手のnegative face+自分のpositive face	相手のpositive face+自分のnegative face	positive face
フェイス	9:11	1:3	34:29	2:1	2:1	0:2	2:3

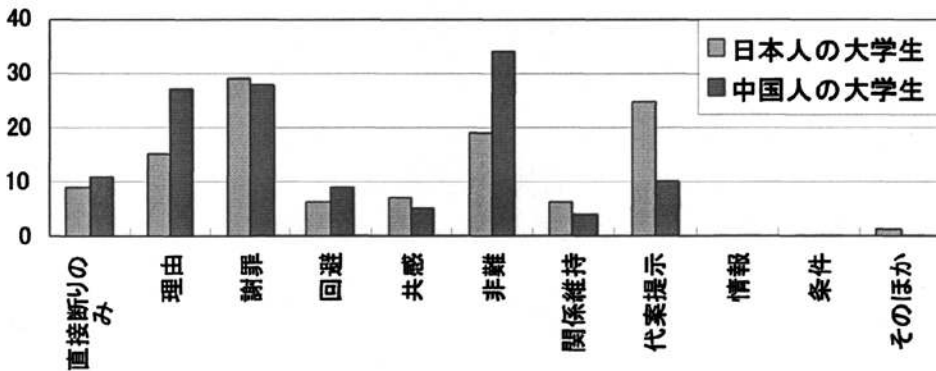


図3.1 意味公式の使用頻度に対するグラフ

表3.3では、家族からの要求に対して、日本人大学生と中国人大学生は主に selfish faceを使っているという共通点が見られる。同時に、日本人大学生も中国人大学生も、家族からの「味噌やキムチなど買って来てくれない」の要求者のnegative

faceをほとんど考えていない。調査結果においては、「直接的断りのみ」は日本人大学生が9人、中国人大学生は11人で、被調査対象のそれぞれ18パーセントと22パーセントを占めている。つまり、日本人大学生も中国人大学生もselfish faceのnegative faceに多く働きかける。該当する日本人大学生は34人、中国人大学生は29人であり、68パーセントと58パーセントの比重を占めている。断る側の「直接的断り」を伴わず、negative faceを守るために、日本人大学生と中国人大学生は違う意味公式を用いて相手に断っている。即ち、「断り」の意味を相手に直接に伝えないで、「断り」の含みを表そうとしているのである。この点で日本人大学生は主に「代案提示」（50パーセント）を、中国人大学生は「非難」（72パーセント）を多く使用することが分かる。例を挙げる。

日本人大学生の場合：

例1)

相手：帰る途中、味噌やキムチなど、買ってきてくれない？

被調査者：忙しいから、ごめんね。お父さんは暇だよ。

（「理由」 「謝罪」 「代案提示」）

例2)

相手：帰る途中、味噌やキムチなど、買ってきてくれない？

被調査者：面倒くさいから、家にある味噌使ってよ。

（「理由」 「代案提示」）

例3)

相手：帰る途中、味噌やキムチなど、買ってきてくれない？

被調査者：え～、何で僕がいかなきゃいけないんだ、妹に行かせるよ。

（「非難」 「代案提示」）

例4)

相手：帰る途中、味噌やキムチなど、買ってきてくれない？

被調査者：悪い。用事があるので。ご飯はカレーにしない？

（「謝罪」 「理由」 「代案提示」）



中国大学生の場合：

例5)

相手：去超市，帮买点儿调料。

- スーパーへ行って、調味料など、買ってきてくれない？

被調査者：怎么总让我买啊。不去。

- どうして僕ばかりにやらせるの、行かない。

(「非難」 「直接的断り」)

例6)

相手：去超市，帮买点儿调料。

- スーパーへ行って、調味料など、買ってきてくれない？

被調査者：我要学习，我哪有空闲？对不起啊。

- 勉強中だよ。暇がない。ごめん。

(「理由」 「非難」 「謝罪」)

例7)：

相手：去超市，帮买点儿调料。

- スーパーへ行って、調味料など、買ってきてくれない？

被調査者：没有看见我在做作业吗？

- 宿題をやっているから。わからない？

(「非難」)

例8)

相手：去超市，帮买点儿调料。

- スーパーへ行って、調味料など、買ってきてくれない？

被調査者：你自己怎么不去啊？

- なんで、おかあさん、自分が行かない？

(「非難」)

以上の例1～例8によれば、日本人大学生と中国人大学生は家族からの「味噌やキムチなど買ってくる」に対して、「断り」の意味をあからさまに表す「直接的断り」を使用せず、自分のnegative face に働きかけることによって「断り」の意味を伝えている。

日本人大学生は自分のnegative face に働きかけるために「代案提示」を多く使用している。「お父さんは暇だよ」「家にある味噌使ってよ」「妹に行かせるよ」「ご飯はカレーにしない？」などの「代案提示」を使って、相手に対して誠心誠意に解決案を考え、第三者の物事に対して責任を転嫁する働きをしている、自分のやりたくない気持ちに変えて伝える<sup>[32]</sup>。一方、中国人大学生は日本人大学生と同様、家族に対して「直接的断り」を使用せず、自分のnegative face に働きかけるものの、使用している意味公式には多くの違いが見られる。例5、例6、例7、例8から分かるように、中国人大学生は全て「非難」の意味公式を使用している。この「非難」には実際「断り」の意味は含まれていないが、相手の要求を責めることによって自分のnegative face を守ることができると考えられる。中国人大学生は意図的に「直接的断り」というnegative face に働きかけないで、「非難」を用いて間接的にnegative face に働きかけたと考えられる。

この調査結果では、「非難」の意味公式が日本人大学生も多く用いられたことが分かる。しかし、日本人大学生の「非難」には例6と例7のような「我有那空闲吗?」「没有看见我在做作业吗」などの強烈な反語のような述語の語尾が見られなく、日本人大学生と中国人大学生の「非難」の表し方の違いも明らかとなった。

### 3.2.2 親しいグループに対する中日両国大学生の「断り」

親しいグループから「引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない」との依頼を受けた時、日本人大学生と中国人大学生は次のようなフェイス相互作用によって「断り」を遂行している。表3.4に図示する。

表3.4 親しいグループに対する中日両国の大学生の「断り」の調査結果

	直接的断りのみ	selfish-face			mutual face		hearer's face
		positive face	negative face	semi face	相手のnegative face+自分のpositive face	相手のpositive face+自分のnegative face	positive face
フェイス	4 : 6	1 : 5	10 : 5	2 : 0	14 : 25	6 : 1	13 : 10

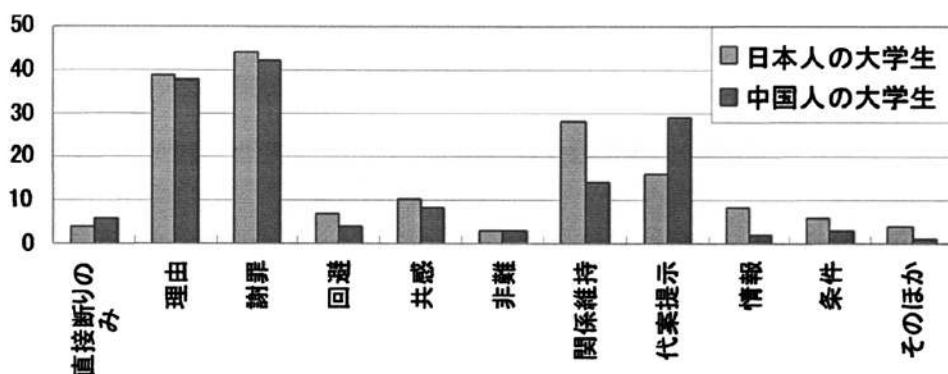


図3.2 意味公式の使用頻度に対するグラフ

表3.4によれば、日本人大学生と中国人大学生は、家族に対してselfish face に働きかけて断っている反面、親しいグループに対しては mutual face に変更して相手のフェイスまで考慮する傾向が現れることが明確である。

調査結果において、「直接的断りのみ」は日本人大学生では4人、中国人大学生では6人であり、被調査対象の8パーセントと12パーセントに過ぎない。一方で、日本人大学生も中国人大学生も mutual face に多く働きかけている。これは日本人大学生が20人、中国人大学生は26人であり、40パーセントと52パーセントの比重を占める。両国の大学生も相手との関係を慎重に考慮し、相手のフェイスを守るために、断る側は「謝罪」「理由」「代案提示」「関係維持」などの意味公式を多数用いる。「親しいグループ」に対しては、「直接的断り」を伴いながらフェイス相互作用を使う方が「直接的断り」を伴わず、フェイス相

相互作用を行う使用頻度に比べ低い。日本人大学生は親しいグループに対して、断る時、「謝罪」「理由」だけでなく、「関係維持」の意味公式を多く使う傾向が現れる。それに対して、中国人大学生は親しいグループに対して、断る時、「謝罪」「理由」などの上に、「代案提示」の意味公式も多く使用する傾向も現れる。例を挙げる。

日本人大学生の場合：

例9)

相 手：今週の土曜日に、引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない？

被調査者：いけないです。本当にごめんなさい。

(「直接的に断り」 「謝罪」)

例10)

相 手：今週の土曜日に、引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない？

被調査者：あのう、ほんとうに行きたいんですが、バイトに行かないといけないので、すみません。今度、手伝うよ。

(「関係維持」 「理由」 「謝罪」 「関係維持」)

例11)

相 手：今週の土曜日に、引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない？

被調査者：すみません、その日、用事があるので、今度、行きます。よろしくね。ごめんね。

(「謝罪」 「理由」 「関係維持」 「謝罪」)

例12)

相 手：今週の土曜日に、引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない？

被調査者：ああ、申し訳ありません。あの、どうしてもはずせない用事があってあの、日曜日には何か手伝うことがあれば、手伝えるんですけども、土曜日はちょっと。すみません。

(「謝罪」 「理由」 「関係維持」 「回避」 「謝罪」)

中国人大学生の場合：

例 13)

相 手：这个星期六我换宿舍，你有空的话，帮我搬搬东西好吗？

○ 今週の土曜日に、引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない？

被調査者：不好意思，我有很多作业，真对不住啊。小王好像有空，问问他吧。

回头请你吃饭啊。

○ すみません、宿題がたくさんあるので、ほんとうに申し訳ございません。王さんが空いているようです。聞いてみよう。今度、美味しいもの奢るね。

(「謝罪」「理由」「謝罪」「代案提示」「関係維持」)

例 14)

相 手：这个星期六我换宿舍，你有空的话，帮我搬搬东西好吗？

○ 今週の土曜日に、引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない？

被調査者：周六啊，我们有重要会议，实在脱不开身，周日搬家吧，周日我有空。

○ あ〜、土曜日も、重要な会議があるので、どうしてもはずせないです、ほんとにすみません。日曜日はどうでしょう。日曜日は暇です。

(「情報」「理由」「謝罪」「代案提示」)

例 15)

相 手：这个星期六我换宿舍，你有空的话，帮我搬搬东西好吗？

○ 今週の土曜日に、引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない？

被調査者：对不起，我这个周末很忙，我帮你问问其他人吧。

○ ほんとにすみません、今週末は忙しいです。他の人に頼んでみよう。

(「謝罪」「理由」「代案提示」)

例 16)

相 手：这个星期六我换宿舍，你有空的话，帮我搬搬东西好吗？

○ 今週の土曜日に、引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない？

被調査者：对不起，我很想去帮你，但是实在是太忙了。小李好像有时间，你问问他吧。不好意思啊。

- 申し訳ございません、確かに、手伝いたいです、とても忙しいの  
です。李さんが暇なようです。聞いてみよう。ごめんね。

(「謝罪」 「関係維持」 「理由」 「代案提示」 「謝罪」)

以上の例9～16例文から、日本人大学生と中国人大学生は親しいグループからの「引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない」に対して、mutual face に働きかけることで「断り」の意味を相手に伝えている。

日本人大学生の場合を詳細に検討すると、例えば、例12の「ああ、申し訳ありません。」は「謝罪」であり、「どうしてもはずせない用事があって」は「理由」の弁明であり、「日曜日何か手伝うことがあれば、手伝えるんですけども」は「関係維持」であり、「土曜日はちょっと」は「回避」であり、「すみません」は「謝罪」である。相手の意図に応じることができないため、まずはじめに、「謝罪」をする。そしてなぜ、いけないかという理由を説明して、相手との関係を考慮して、「関係維持」の意味公式を使っている。「いけない」「駄目」「できない」のような「直接的断り」を避けるように「土曜日はちょっと」という曖昧な言い方を使っている。最後に、もう一度、「謝罪」の意味公式を使用している。例10、例11、例12から見ると、日本人大学生は mutual face に働きかけるために「関係維持」という意味公式を多く使用している。「今度、手伝うよ」、「今度、行きます。よろしくね」、「日曜日はなんか手伝うことがあれば、手伝えるんですけども」などの「関係維持」を使うことによって、相手に対して断っても、人間関係に悪い影響を強く及ぼさないのである。

一方、中国人大学生は日本人大学生と同様、親しいグループに対して「直接的断り」を使用せず、mutual face に働きかけるが、使用している意味公式には日本人大学生の場合とは多くの違いが見られる。例13～例16 から分かるように、中国人大学生が「謝罪」「理由」のほかに、多く使っているのは「代案提示」の意味公式である。例えば、例文13で、相手に断る時の初めの「すみません」は「謝罪」であり、次は「宿題がたくさんあるので」の「理由」を説明する。「ほんとうに申し訳ございません」はもう一度「謝罪」であり、「王さんが空いているよ

うです。聞いてみよう」は「代案提示」である。自分は手伝いが出来ない状況であるために、「断り」の代わりに相手のpositive face に働きかけようという他の解決策を出しているのである。そして最後の、「今度美味しいもの奢るね」は「関係維持」の意味公式である。中国人大学生は「直接的断り」を使用せず、「代案提示」の意味公式を用いることによって、自分がやりたくない、自分ができないという「断り」の気持ちを相手に伝えている。

ちなみに、調査結果によれば、中国人大学生も「関係維持」の意味公式を多く使っているものの、日本人大学生の「関係維持」とは違いがあることが明らかになった。中国人大学生はまず相手に断ってから、「関係維持」のため、その代わりに、補償の行為を遂行する場合がよく見られる。このような点は日本人大学生には全く存在しない。

### 3.2.3 親しくないグループに対する中日両国の大学生の「断り」

親しくないグループから「明日の夜、パーティーをするので、よかったら家に来ませんか」との誘いを受けた時、日本人大学生と中国人大学生は次のようなフェイス相互作用によって「断り」を遂行している。表 3.5 に図示する。

表 3.5 親しくないグループに対する中日両国大学生の「断り」の調査結果

	直接的断りのみ	selfish-face			mutual face		hearer's face
		positive face	negative face	semi face	相手の negative face+自分の positive face	相手の positive face+自分の negative face	positive face
フェイス	5 : 6	7 : 9	2 : 3	x	26 : 18	2 : 4	8 : 10

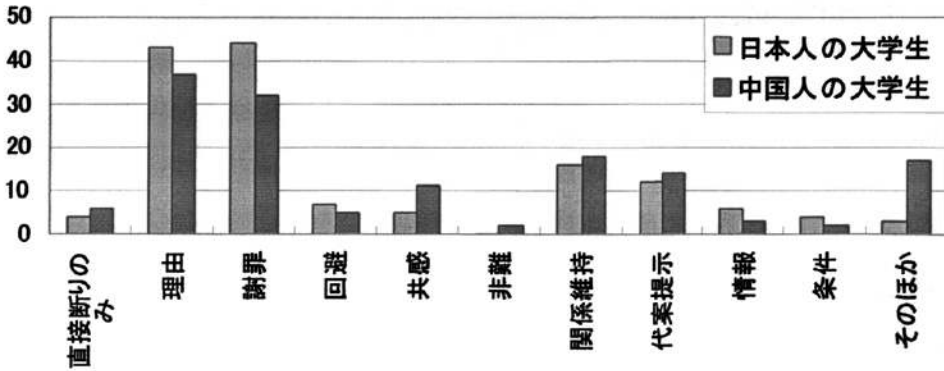


図3.3 意味公式の使用頻度に対するグラフ

表3.5から分かるように、日本人大学生と中国人大学生は、親しくないグループに対しては主に、mutual face に働きかけている。断る時、相手のフェイスを考慮して、慎重に「断り」を遂行する傾向であることが明確である。

調査結果によれば、「直接的断りのみ」は日本人大学生では5人、中国人大学生は6人であり、被調査対象の10パーセントと12パーセントにしか過ぎない。一方でmutual face に働きかけている。日本人大学生は28人、中国人大学生は22人であり、56パーセントと44パーセントの比重を占めている。両国の大学生は親しくないグループに対して、断る時、「謝罪」「理由」を多用するだけでなく、「関係維持」と「代案提示」の意味公式を多く用いるという傾向が現れている。この点は親しいグループの場面②に似ている。例文を挙げる。

日本人大学生の場合：

例 17)

相手：明日の夜、パーティーをするので、よかったら家に来ませんか。

被調査者：ごめんね、明日の夜、バイトがありますので。今度、ぜひ、行きたいです。すみません。

(「謝罪」 「理由」 「関係維持」 「謝罪」)

例 18)

相手：明日の夜、パーティーをするので、よかったら家に来ませんか。



被調査者：明日の夜ですか。ちょっと無理だと思います。約束があるので、本当にすみません。

(「情報」 「直接的断り」 「理由」 「謝罪」)

例 19)

相手：明日の夜、パーティーをするので、よかったら家に来ませんか。

被調査者：にぎやかな雰囲気あまり… すみません。

(「理由」 「謝罪」)

例 20)

相手：明日の夜、パーティーをするので、よかったら家に来ませんか。

被調査者：ちょっと、授業がありますので、行けないのです。すみません。

(「回避」 「理由」 「断り」 「謝罪」)

中国人大学生の場合：

例 21)

相手：明天晚上，我家有个party，方便的话你也一起来吧。

○ 明日の夜、パーティーをするので、よかったら家に来ませんか。

被調査者：对不起，我明天晚上有课。去不成啊，下次吧。谢谢！

○ すみません、明日の夜、授業がある。行けない。今度、ありがとう。

(「謝罪」 「理由」 「直接的断り」 「関係維持」 「そのほか」)

例 22)

相手：明天晚上，我家有个party，方便的话你也一起来吧。

○ 明日の夜、パーティーをするので、よかったら家に来ませんか。

被調査者：太好了。很想去啊，不过我家里有事，明天要回家一趟。对不起啊。

不过还是要谢谢你的邀请。

○ 良いね。行きたいな。用事があって、明日、家へ帰らなければ。ごめんね。私を誘って、ありがとう。

(「共感」 「理由」 「謝罪」 「そのほか」)

例 23)

相手：明天晚上，我家有个party，方便的话你也一起来吧。

○ 明日の夜、パーティーをするので、よかったら家に来ませんか。

被調査者：谢谢你的邀请，我后天有考试。对不起啊。问问小李吧。他好像有时间。

○ 誘って、ありがとう。あさって、試験がありますから。すみません。  
李さんに聞いてみよう。暇があるようです。

(「そのほか」 「理由」 「謝罪」 「代案提示」)

例 24)

相手：明天晚上，我家有个party，方便的话你也一起来吧。

○ 明日の夜、パーティーをするので、よかったら家に来ませんか。

被調査者：啊，明天啊。不好意思，恩，明天晚上有球赛，你知道我是一球迷。  
下次吧。谢谢啊。

○ ああ、明日？すみません。明日の夜、サッカーの試合があるよ、大  
好きだよ。今度ね。ありがとう。

(「情報」 「謝罪」 「理由」 「関係維持」 「そのほか」)

以上、例 17～例 24 によれば、中日両国の大学生は親しくないグループの positive face を立てながら、断らなければならない自分の「断り」の正当化を相手から分かってもらおうとして、断った後の人間関係も考慮して「断り」を遂行している。中日両国の大学生は相手の positive face に働きかけるために「断り」の時、「謝罪」の意味公式を用いている。「謝罪」以外には「その他(約束)」や「情報」「関係維持」によっても相手のフェイスを立てている。例 17 では、断る時、日本人大学生はまず、「ごめんね」と「謝罪」をする。そして次に、「明日の夜、バイトがありますが」で「理由」を弁明して、自分が「断り」を遂行する正当化を相手に分かってもらおうとする。更には今後の相手との関係を考慮して、「今度、ぜひ、行きたいです」の「関係維持」の意味公式を使用する。そして最後に、もう一度、「すみません」の「謝罪」の意味公式を使って、自分が相手に断ることのお詫びの気持ちを表している。

例24では、「啊，明天啊」は「情報」であり、「不好意思」は「謝罪」の意味公式であり、「恩，明天晚上有球赛，你知道我是一球迷」は「理由」である。例文では、「恩，明天晚上有足球赛」は「理由」を弁明して、更に「你知道我是一球迷」を補充して、「断り」の行為を正当化して、相手に信じてもらえるような理由を説明する。相手に対して直接的表現を避けるために「情報」「理由」などの意味公式を使うことによって「断り」の気持ちを伝える。当然、相手との関係を考慮して、「断り」を遂行した後のリスクを減少するために、「関係維持」の意味公式を使用することが多い。

例文の文末からは、日本人大学生は相手を断るとき、はっきりと「できません」というより「ちょっとね」、或いは「ちょっとできないけど」といった濁し現象が多く見られるが、中国人大学生にはあまり見られなかった。

誘いに対する「断り」では、日本では、主に、「すみません」「ごめんね」「悪いね」など、謝りを表す言葉が多い。中国人大学生の調査では、「对不起」「不好意思」など、お詫びを表す言葉もあるだけでなく、相手の好意に感謝の気持ちを表すために「谢谢」という言葉がよく用いられている。

### 3.2.4 知らないグループに対する中日両国の大学生の「断り」

知らないグループから「すみません、アンケートをお願いします」との依頼を受けた時、日本人大学生と中国人大学生は以下のようなフェイス相互作用によって「断り」を遂行している。表 3.6 で図示する。

表3.6 知らないグループに対する中日両国の大学生の「断り」の調査結果

	直接的断りのみ	Selfish face			mutual face		hearer's face
		positive face	negative face	semi face	相手の negative face+自分の positive face	相手の positive face+自分の negative face	positive face
フェイス	19:27	0 : 2	28 : 16	x	1 : 4	2 : 1	x

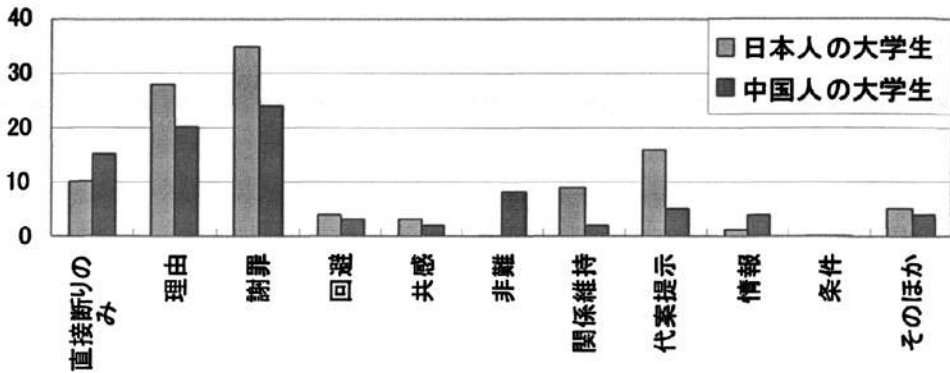


図 3.4 意味公式の使用頻度に対するグラフ

表 3.6 では、知らない人からの要求に対して、日本人大学生と中国人大学生は共に *selfish face* を多く使っているという共通点が見られる。同時に、日本人大学生も中国人大学生も、知らない人の *negative face* を全く考慮していない。この点は家族に対しての断る時の場合と使用例が似ている。調査結果では、「直接的断りのみ」は日本人大学生が 19 人に対して、中国人大学生は 27 人であり、被調査対象の 38 パーセントと 54 パーセントを占めている。また、日本人大学生と中国人大学生は *selfish-face* の *negative face* に多く働きかけている。日本人大学生は 28 人、中国人の大学生は 16 人であり、56 パーセントと 32 パーセントの比重を占めている。例を挙げる。

日本人大学生の場合：

例 25)

相手：すみません、アンケートをお願いします。

被調査者：すみません、無理だよ。

(「謝罪」「直接的断り」)

例 26)

相手：すみません、アンケートをお願いします。

被調査者：ごめんね。忙しいから、他の人に頼んで。今度、時間があれば、手  
伝います。

(「謝罪」 「理由」 「代案提示」 「関係維持」)

例 27)

相 手：すみません、アンケートをお願いします。

被調査者：仕事が沢山あるので、できない。すみません。

(「理由」 「直接的断り」 「謝罪」)

例 28)

相 手：すみません、アンケートをお願いします。

被調査者：すみません、忙しいので、他の人に頼んで。

(「謝罪」 「理由」 「代案提示」)

中国人大学生の場合：

例 29)

相 手：你好，打扰一下，能帮忙做份问卷调查吗？

○ すみません、アンケートをお願いします。

被調査者：不好意思，没有时间。

○ すみません。暇がない。

(「謝罪」 「理由」)

例 30)

相 手：你好，打扰一下，能帮忙做份问卷调查吗？

○ すみません、アンケートをお願いします。

被調査者：我赶时间。

○ 急いでるから。 (「理由」)

例 31)

相 手：你好，打扰一下，能帮忙做份问卷调查吗？

○ すみません、アンケートをお願いします。

被調査者：我哪有时间啊。

○ そんな時間があるわけない。

(「非難」)

例 32)

相手：你好，打扰一下，能帮忙做份问卷调查吗？

○ すみません、アンケートをお願いします。

被調査者：你找别人吧。我很忙。

○ ほかの人に頼んで。忙しい。

(「代案提示」 「理由」)

例25～例32では、知らない人の「すみません、アンケートをお願いします」の要求に対し、被調査者の回答は短いという顕著な特徴がある。また、「できない」「駄目」「いけない」など「直接的断り」が圧倒的に多いことが明らかである。

日本人大学生の場合は相手の意図に応じられない時、「謝罪」という意味公式がほとんどの場合で使われている。例文26を詳細に検討してみると、「ごめんね」は「謝罪」であり、「忙しいから」は「理由」であり、「他の人に頼んで」は「代案提示」であり、「今度、時間があれば、手伝います」は「関係維持」の意味公式である。自分が相手を手伝えないために、謝罪する。相手にこの意図を分かってもらえるように、理由を説明している。これは相手から認めしてほしい、よく見られたいという気持ちである *positive face* に当たると考えられる。また、「今度、時間があれば、手伝います」のように相手に自分からわざわざ約束を言い出すことによって、相手のフェイスを守ることが見られる。

一方、中国人大学生は相手の意図に応じられない時、「謝罪」という意味公式を使っているものの、その人数は日本人大学生よりずっと少ない。例文29、「不好意思，没有时间」は「謝罪」と「理由」の組み合わせである。例文30と例文31のように、ただ一つだけの意味公式を使って、相手を断る例がよく見られる。更に、「直接的断り」のみを使っている人数は日本人大学生より遥かに多い。更に、調査の結果では、「非難」の意味公式も見られた。つまり、相手

のフェイスを全く考えずに「断り」を遂行していることが分かる。

ちなみに、この調査においては、日本人大学生では「関係維持」の意味公式が何度も出てくる。中国人大学生は知らない人を対象に、「関係維持」の意味公式を一度も使っていない。

### 3.2.5 まとめ

以上、四つの「断り」の場面を比較した結果、次のことが明らかになった。

場面①では家族に対して、中日両国の大学生は主に *selfish face* を使っているという共通点が見られる。断る時、家族という要求者の *negative face* は全く考えていない。つまり、日本人大学生も中国人大学生も *selfish face* の *negative face* に多く働きかけている。「断り」の意味を相手に直接に伝えないで、「断り」の含みを表すために日本人大学生は主に「代案提示」（50 パーセント）を、中国人大学生は「非難」（72 パーセント）を多く使用していることが分かる。

場面②では親しいグループに対しては中日両国の大学生は主に *mutual face* に働きかけて相手のフェイスまでも考慮している傾向が現れることがはっきりと分かる。両国の大学生とも相手との関係を慎重に考慮した上で、相手のフェイスを守るために、断る側は「謝罪」「理由」「代案提示」「関係維持」などの意味公式を多数使用している。日本人大学生は、断る時、「謝罪」「理由」だけでなく、「関係維持」の意味公式を多く用いているという傾向が現れた。それに対して、中国人大学生は親しい先生に対して、断る時、「謝罪」「理由」などの上に、「代案提示」の意味公式が多く使用している傾向も現れている。

場面③の親しくないグループに対しては主に、*mutual face* に働きかけている。断る時、相手のフェイスを考慮して、慎重に「断り」を遂行する傾向が現れた。断る時、「謝罪」「理由」を多用するだけでなく、「関係維持」と「代案提示」の意味公式が多く使われているという傾向が現れている。この点が親しいグループの場面②に似ていることも特徴である。

日本人大学生には相手のことを断るとき、はっきり「できません」というより「いけないが」、或いは「駄目だけど」といった「断り」表現の文末に、濁す現象が多く見られたが、中国人大学生の場合はあまり見られなかった。

場面④では知らないグループに対して中日両国の大学生は主に selfish face を使っているという共通点が見られた。知らないグループの要求者の negative face を全く考えていない。また、被調査者の回答は短いという顕著な特徴がある。

「できない」「駄目」「いけない」などの「直接的断り」が圧倒的である。中国人大学生は「謝罪」という意味公式を使用しているが、その使用した人数は日本人大学生よりずっと少ない。更に、「直接的断り」のみを使っている人数は日本人大学生より遥かに多い。また、「非難」の意味公式も多く使用されることが見られた。

### 3.3 「断り」の場面における意味公式の使用個数の比較

#### 3.3.1 「断り」の場面における四つの場面間意味公式の使用個数比較

本稿では、意味公式により、アンケート調査から得られた答えを分析したことは前述のとおりである。次の例のように、一人の答えに同一の意味公式が繰り返し用いられた場合にも、それぞれを独立した意味公式として数えた。

例えば、例文 12、すみません、宿題がたくさんあるので、ほんとに申し訳ございません。王さんが空いているようです。聞いてみよう。今度美味しいもの奢るね。

(「謝罪」「理由」「謝罪」「代案提示」「関係維持」)

上記の例は、「謝罪」「理由」「謝罪」「代案提示」「関係維持」という意味公式の組み合わせによって示される断りである。また、「謝罪」は二回繰り返されているが、それぞれを数えるため、意味公式の使用個数は5個である。

まず、四つの場面を全体的に分析すると、図5のように、両国の大学生共に親しいグループと親しくないグループに断る場面②、場面③で、意味公式の使



用個数が多いことが見られた。逆に、家族と知らないグループに断る場面①、場面④で、意味公式の使用個数が相対的に少ないことが分かっている。

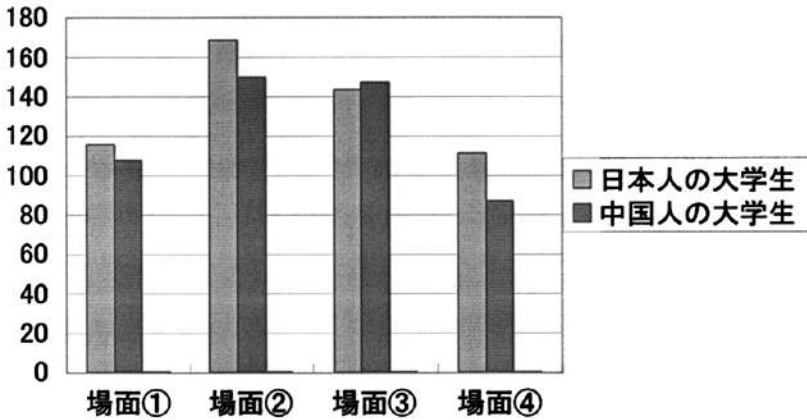


図 3.5 四つの場面の意味公式の使用個数

### 3.3.2 「断り」のそれぞれの場面における意味公式の使用個数比較

次に、意味公式の使用個数を1個、2～3個、4～5個、6個以上に分けて比較した<sup>[33]</sup>。これを図 3.6、図 3.7、図 3.8、図 3.9 に示すと、以下のようになる。それぞれの場面を検討する。

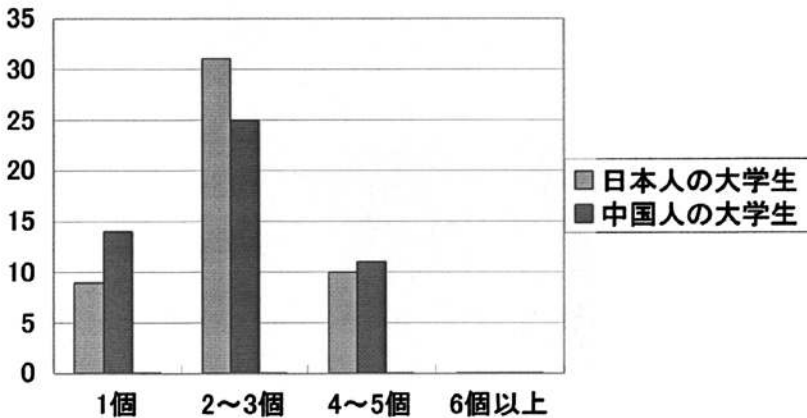


図3.6 場面①意味公式の使用個数

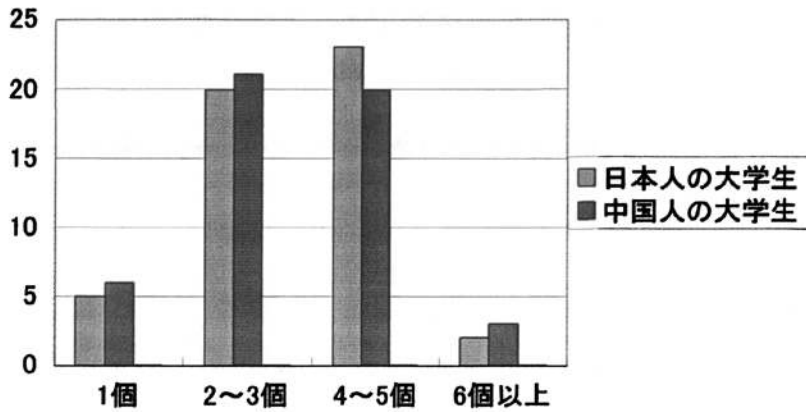


図 3.7 場面②意味公式の使用個数

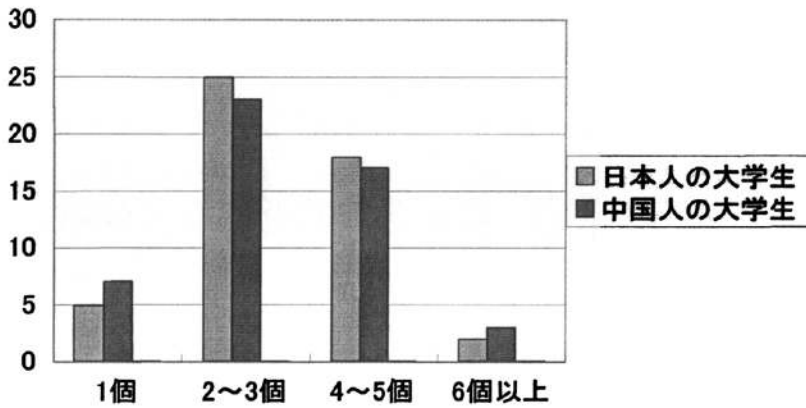


図 3.8 場面③意味公式の使用個数

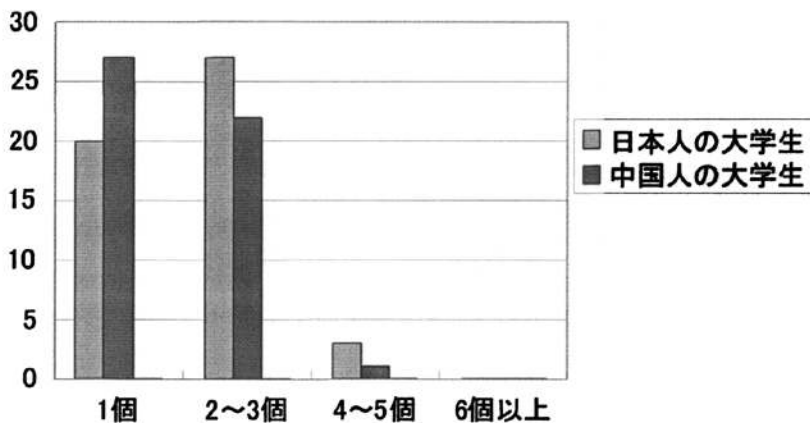


図 3.9 場面④意味公式の使用個数

日本人大学生も中国人大学生も、親しいグループに断る場面②、親しくないグループに断る場面③では、意味公式の使用個数が1個である割合が低いのに対し、家族に断る場面①、知らないグループ場面④では、1個から成る、比較的短い「断り」の言語行為が行われることが多い。具体的見れば、意味公式の使用個数が1個である場合は家族に断る場面①では、日本人大学生は9人、中国人大学生は14人、親しいグループに断る場面②では、日本人大学生は5人、中国人大学生は6人、親しくないグループに断る場面③では、日本人大学生5人、中国人大学生は7人、知らないグループ場面④では、日本人大学生は20人、中国人大学生は27人である。

また、意味公式の使用個数が6個以上の割合は、親しいグループに断る場面②、親しくないグループに断る場面③の方が家族に断る場面①、知らないグループに断る場面④より高い。家族に断る場面①、知らないグループ場面④では、意味公式の使用個数が6個以上である場合が全くないことが明らかになった。また、意味公式の使用個数が4～5個の割合は、親しいグループに断る場面②、親しくないグループに断る場面③では圧倒的に多く、親しいグループに断る場面②では、日本人大学生は23人、中国人大学生は25人であり、親しくないグループに断る場面③では、日本人大学生は18人、中国人大学生は17人である。

したがって、両国の大学生は、親しいグループに断る場面と親しくないグループに断る場面では、家族と知らないグループに断る場面と比べ、多くの意味公式を用いて、「断り」の言語行為を行うと言える。

更に、日本人大学生に比べて、中国人大学生は全体として、意味公式の使用個数は1個の割合が高く、一方で2～3個、4～5個、6個以上の割合の合計は低くなっていることから、日本人大学生は、「断り」の場面で中国人大学生より多くの意味公式を用いていると言える。

### 3.4 「断り」の場面における心理困難度の比較

#### 3.4.1 「断り」の場面における四つの場面間心理困難度の比較

ここでは「断り」の場面における心理困難度を比較する。分かりやすいように、各場面における中日両国大学生の「断り」の心理困難度数について以下のようにまとめる。表 3.7 に図示する。

表 3.7 中日両国の大学生が「断り」の時に生じる、心理困難度の大きさ

		全く難しくない (1点)	あまり難しくない (2点)	やや難しい (3点)	大変難しい (4点)	困難度合計 (点)	心理困難度 値 (点)
場面①	日本	人数	36	10	3	1	
		困難度数	36x1	10x2	3x3	1x4	69
	中国	人数	40	6	3	1	
		困難度数	40x1	6x2	3x3	1x4	65
場面②	日本	人数	0	2	16	32	
		困難度数	0x1	2x2	16x3	32x4	180
	中国	人数	2	11	14	23	
		困難度数	2x1	11x2	14x3	23x4	158
場面③	日本	人数	8	7	11	24	
		困難度数	8x1	7x2	11x3	24x4	151
	中国	人数	4	11	12	23	
		困難度数	4x1	11x2	12x3	23x4	154
場面④	日本	人数	31	11	4	2	
		困難度数	31x1	11x2	4x3	2x4	73
	中国	人数	40	8	1	1	
		困難度数	40x1	8x2	1x3	1x4	63

「断り」の四つの場面全般から見ると、心理困難度数において合計で日本人

大学生は 473 点であり、中国人大学生は 440 点である。平均すれば、日本人大学生の心理困難度は 9.46 点で、中国人大学生の心理困難度は 8.8 であり、0.66 点の差がある。

日本人大学生の場合：

設定した四つの場面を比較する。まず、日本人大学生の場合を検討する。

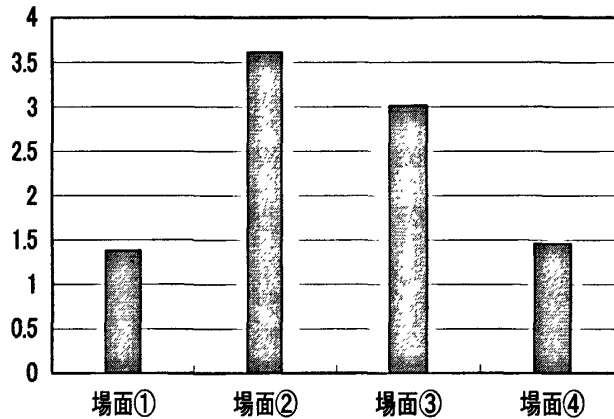


図 3.10 四つの場面における日本人大学生の心理困難度

図 3.10 に示されているように、日本人大学生が一番難しく感じるのは「親しいグループ」に断る場面②で 3.6 点である。「たいへん難しい」に近い。次は「親しくないグループ」に断る場面③で、3.02 点である。一番低い数値は「家族」に断る場面①で、1.38 点である。

中国人大学生の場合：

中国人大学生が一番難しく感じるのは日本人大学生と同様、「親しいグループ」に断る場面②で 3.16 点である。次は「親しくないグループ」に断る場面③で、3.08 である。一番低い数値は、日本人大学生の「家族」と違って、「知らない人」に断る場面④で、1.26 点であり、「全く難しくない」に近い。図 3.11 を考察する。

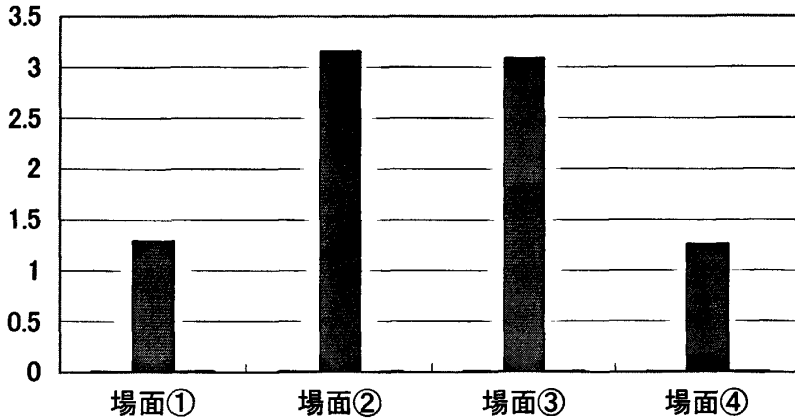


図 3.11 四つの場面における中国人大学生の心理困難度

### 3.4.2 「断り」のそれぞれの場面における心理困難度の比較

同じ場面において、中日両国の大学生が断る時の心理困難度を比較する。分かりやすいように、図 3.12 に示した。

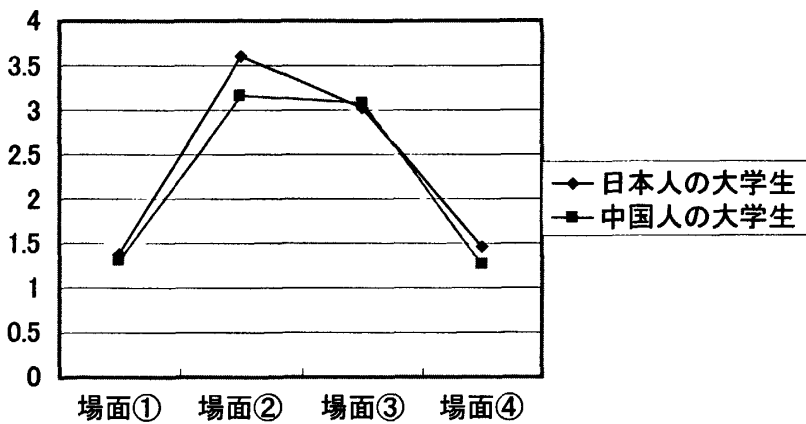


図 3.12 中日両国の大学生が断る時の心理困難度

まず、場面①では、困難度数において合計で日本人大学生は 69 点であり、中国人大学生は 65 点である。平均すれば、日本人大学生の困難度値は 1.38 点で、

中国人大学生の困難度値は 1.3 点であり、0.08 点の差がある。0.08 点の差は無視してもいいと思われるので、「家族」に断る場面で日本人大学生と中国人大学生の心理困難度が同様であると見ることにする。

場面②では、困難度数において合計で日本人大学生は 180 点であり、中国人大学生は 158 点である。平均すれば、日本人大学生の困難度値は 3.6 点で、中国人大学生の困難度値は 3.16 であり、0.44 点の差がある。四つの場面において、場面②の困難度値が一番高い。日本人大学生も中国人大学生も、親しいグループに断る時、相手のことを慎重に考慮して、「断り」の言語行為を遂行する傾向がある。

場面③では、困難度数において合計で日本人大学生は 151 点であり、中国人大学生は 154 点である。平均すれば、日本人大学生の困難度値は 3.02 点で、中国人大学生の困難度値は 3.08 点であり、この場面では、中国人大学生の困難度値は日本人大学生より 0.06 点高いが、その 0.06 点の差は無視してもいいと思われるので、「親しくないグループ」に断る場面で日本人大学生と中国人大学生の心理困難度がほぼ同様であると見ることにする。

場面④では、困難度数において合計で日本人大学生は 73 点であり、中国人大学生は 63 点である。平均すれば、日本人大学生の困難度値は 1.46 点で、中国人大学生の困難度数は 1.26 であり、0.2 点の差がある。「知らない人」に断る時、中国人大学生より、日本人大学生は少し、難しく感じる傾向がある。中国人大学生にとっては、知らない人、自分と関係ない人に断るのは、全く難しくないことと言えるのではなかろうか。

### 3.4.2 まとめ

以上をまとめると、日本人大学生の場合は、「断り」の場面における心理困難度の一番高いのは、親しいグループに断る場面②であり、二番目は親しくないグループに断る場面③である。最も低いのは家族に断る場面①である。中国人大学生の場合では心理困難度の一番高いのは、日本人大学生と同様、親しいグループに断る場面②であり、二番目はやはり親しくないグループに断る場面

③である。最も低いのは家族に断る場面①ではなく、知らないグループに断る場面④である。

全体的に見ると、両国の大学生は親しいグループに断る場面②と親しくないグループに断る場面③では、心理困難度がかなり高く、家族に断る場面①と知らないグループに断る場面④では、心理困難度がより低いと言える。

両国の大学生の「断り」の場面における心理困難度を比較すると、家族に断る場面①では日本人大学生の心理困難度値は中国人大学生のそれより 0.08 点高く、親しいグループに断る場面②では 0.44 点高く、知らないグループに断る場面④では 0.2 点高い。それに対して、中国人大学生の心理困難度値が日本人大学生より高いのは親しくないグループに断る場面③だけで、その差は 0.06 点である。したがって、「断り」の場面では、日本人大学生は中国人大学生より心理困難度が高いと言える。

### 3.5 「断り」の場面における意味公式の使用個数と心理困難度との関係

#### 3.5.1 「断り」の場面における意味公式の使用個数と心理困難度と関係の分析

##### 3.5.1.1 中国人大学生の場合

中国人大学生の「断りの場面における心理困難度調査」において、「断り」の心理困難度値が最も高くなっているのは親しいグループに断る場面②であり、3.16 点である。一方、「断り」の心理困難度値が最も低くなっているのは知らないグループに断る場面④であり、1.26 点である。

また、意味公式の使用個数は心理困難度に比例しており、場面②で最も多く、場面④で、最も少なくなっている。したがって、中国人大学生の場合は会話参加者のフェイスを保持することに配慮して断ろうと意識する場面では、意味公式の使用個数が多くなると言える。



### 3.5.1.2 日本人大学生の場合

日本人大学生の「断りの場面における心理困難度調査」において、「断り」の心理困難度値が最も高くなっているのは親しいグループに断る場面②であり、3.6点である。「断り」の心理困難度値が最も低くなっているのは、家族に断る場面①であり、1.38点である。しかしながら、意味公式の使用個数は場面②で最も多いものの、最も少なくなっているのは家族に断る場面①ではなく、知らないグループに断る場面④である。また、「断り」の心理困難度値が二番目に高いのは親しくないグループに断る場面③である。意味公式の使用個数の調査では、二番目に多いのは、やはり親しくないグループに断る場面③である。

したがって、日本人大学生の場合は会話参加者のフェイスを保持することに配慮して断ろうと意識する場面では、意味公式の使用個数が多くなると言えるが、意味公式の使用個数は心理困難度と正比例の関係だとは言えない。

### 3.5.2 まとめ

以上をまとめると、意味公式の使用個数は心理困難度と関連があると考えられ、心理困難度が高いほど、相手のフェイスを保持するために、配慮して、多くの意味公式が使われる傾向がある。逆に、心理困難度が低いほど、意味公式が少量である傾向がある。しかし、両国の大学生には微妙な違いがある。中国人大学生の場合は四つの場面では、意味公式の使用個数は心理困難度と正比例の関係にあり、日本人大学生の場合は親しいグループに断る場面②と親しくないグループに断る場面③では、そのような関係が成立するが、全体として考察すれば、意味公式の使用個数は心理困難度と正比例の関係があるとは言えない。

## 終わりに

### 1. 本稿のまとめ

本稿はポライトネス理論と意味公式及び心理困難度から、中日両国大学生を対象に、四つの場面を設定して、「断り」の場面における中日相方の大学生の言語行為の共通点、及び相違点を比較・分析したものである。主に、「断り」の場面における意味公式の使用頻度とポライトネスとの関係、「断り」の場面における意味公式使用個数の比較、「断り」の場面における心理困難度の比較、「断り」の場面における意味公式の使用個数と心理困難度との関係という四つの面から分析・比較した。以下は調査結果についての分析をまとめである。

#### 1.1 「断り」の場面における意味公式の使用頻度とポライトネスとの関係

家族に対して、中日両国の大学生は主に *selfish face* を使っているという共通点が見られる。断る時、家族という要求者の *negative face* はほとんど考えていない。つまり、日本人大学生と中国人大学生は *selfish face* の *negative face* に多く働きかけている。「断り」の意味を相手に直接に伝えないで、「断り」の含みを表すために日本人大学生は主に「代案提示」（50 パーセント）を、中国人大学生は「非難」（72 パーセント）を多く使用することが分かる。

親しいグループに対しては中日両国の大学生は主に *mutual face* に働きかけて相手のフェイスまで考慮する傾向が現れることがはっきり分かる。両国の大学生も相手との関係を慎重に考慮した上で、相手のフェイスを守るために、断る側は「謝罪」「理由」「代案提示」「関係維持」などの意味公式を多数使用している。日本人大学生は、断る時、「謝罪」「理由」だけでなく、「関係維持」の意味公式を多く用いているという傾向が現れた。それに対して、中国人大学生は親しいグループに対して、断る時、「謝罪」「理由」などの上に、「代案提示」の意味公式を多く使用している傾向も現れた。

親しくないグループに対しては主に、*mutual face* に働きかけている。断る時、相手のフェイスを考慮して、慎重に「断り」を遂行する傾向が現れた。断る時、

「謝罪」「理由」を多用するだけでなく、「関係維持」と「代案提示」の意味公式が多く使われているという傾向が現れた。この点が親しいグループの場面②に似ていることも明らかになった。日本人大学生は相手に断るとき、はっきり「できません」というより「ちょっとね」、或いは「ちょっとできないけど」といった、文末に濁す表現が多く見られたが、中国人大学生の場合はあまり見られなかった。

知らないグループに対して中日両国の大学生は主に *selfish face* を使っているという共通点が見られた。知らないグループの要求者の *negative face* を全く考えていない。被調査者の回答は短いという顕著な特徴があり、「できない」「駄目」「いけない」などの「直接的断り」が圧倒的に多い。中国人大学生は「謝罪」という意味公式が使われているが、被調査者に「謝罪」を使う人数は日本人大学生よりずっと少ない。更に、「直接的断り」のみを使っている人数は日本人大学生より遥かに多い。更に、調査の結果では、「非難」の意味公式も多く使用することが明らかになった。

### 1.2 「断り」の場面における意味公式の使用個数の比較

四つの場面を全体的に分析すると、両国の大学生共に親しいグループと親しくないグループに断る場面②、場面③で、意味公式の使用個数は多かったことが見られる。逆に、家族と知らないグループに断る場面①、場面④で、意味公式の使用個数が相対的に少ないことが分かった。

中日両国の大学生を比較してみれば、日本人大学生に比べて、中国人大学生では全体としては、意味公式の使用個数が1個の割合が高く、一方で2~3個、4~5個、6個以上の割合の合計は低くなっていることから、日本人大学生は、「断り」の場面で中国人大学生より多くの意味公式を用いられていると言える。

### 1.3 「断り」の場面における心理困難度の比較

四つの場面全般から見ると、日本人大学生の心理困難度は中国人大学生のより高い。日本人大学生の心理困難度は高い方から順番に言えば、親しいグル

ープ→親しくないグループ→知らないグループ→家族である。一方で中国人大学生の心理困難度は高い方から順番に、親しいグループ→親しくないグループ→家族→知らないグループである。

#### 1.4 「断り」の場面における意味公式の使用個数と心理困難度との関係

以上の分析から意味公式の使用個数は心理困難度と関連があると考えられ、心理困難度が高いほど、相手のフェイスを保持するために、配慮して、多くの意味公式が使われる傾向にある。逆に、心理困難度が低いほど、意味公式は少量である傾向にある。しかし、両国の大学生には微妙な違いがある。中国人大学生の場合、四つの場面では、意味公式の使用個数は心理困難度と正比例の関係にあり、日本人大学生の場合は親しいグループに断る場面②と親しくないグループに断る場面③では、そのような関係が成立するが、全体として考察すれば、意味公式の使用個数は心理困難度と正比例の関係にあるわけではない。

## 2. 今後の課題

本稿は中日両国の大学生の「断り」場面における言語行為を調査して分析を行ったが、今後は日本人と中国人の年齢層も考慮し、同じ質問紙で調査を行い、両者の間に見られる共通点及び相違点を統計学的に分析していきたい。更には広い視点から、「断り」の場面における言語行為を引き続き探っていきたいとも考えている。

## 注釈

注 1 : DCT=英語の discourse completion test の略語。

注 2 : 三宅和子 (1994)

「ウチ : 家族やごく親しい人々」

「ソト : 親しくないが自己やウチと関連がある人々」

「ヨソ : 自己やウチと関係がない人々」

## 参考文献

- [1] Brown, p. and Levinson, S. (1987) *Politeness : Some universals in language usage.*  
Cambridge University Press
- [2] 熊井浩子・「外国人の待遇行動の分析——断り行動を中心にして」静岡大学教養部研究報告第 28 巻
- [3] 藤森弘子 (1994) 「日本語学習者に見られるプラグマティック・トランスファー——『断り』行為の場合」『名古屋学院大学日本語・日本語教育論集』1 号、1-19 頁
- [4] 森山良行. 『日本語の視点～ことばを創る日本人の発想～』創拓社. 1995
- [5] 生駒知子, 志村明彦. 「英から日本語へのプラグマティック・トランスファー: 「断り」という発話行為について」[J]. 『日本語教育 79 号』, 1993
- [6] 馬場・禹永愛 . 「日中両語の断り表現をめぐって」『北海道教育大学 (第 1 部 A) . 第 45 巻, 第 1 号, 43-54. 1994
- [7] 謝芳. 「断り」表現の中日対照研究. 広西師範大学 2007
- [8] 施信余. 「依頼に対する「断り」の言語行動について-日本人と台湾人の大学生の比較-」[J]. 早稲田大学日本語教育研究, 6 号, 2005
- [9] 文鐘蓮. 「断り表現における中日両言語の対照研究」『人間文化論叢』第 7 巻 p123～132 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 2004
- [10] 任炫樹. 「日本語と韓国語の断り表現」『ことばの科学』12, 201-215, 名古屋大学言語文化部言語文化研究会. 2000
- [11] 元智恩. 「日本語と韓国語の断り表現の構造 - 指導教官の依頼を断る場面を中心に -」『言語学論叢』21, 21-37, 筑波大学一般・応用言語学研究室. 2002
- [12] 元智恩. 「断りとして用いられた『ノダ』—ポライトネスの観点から」『計量国語学』24-1 号. 2003
- [13] 権英秀. 「日本人大学生と高校生の『断り』表現—年齢層の差によるポライトネスを中心に—」『日本語文学』第 34 集 大韓日語日文学会. 2007
- [14] 権英秀. 『「ものの買出し」に対する日本人の「断り」表現』現代社会文化研究 2007
- [15] ] 伊藤恵美子. 「マレー語母語話者の中間言語に見られる語用的特徴: 断り表現における普遍性と特殊性」『ことばの科学』2002
- [16] 邱利華. 「発話行為「断り」に見られるストラテジー「意味公式」の新しい枠組みの創造 -」『比較社会文化研究』11, 23-28, 九州大学大学院比較社会文化学府 2002

- [17] 浅羽亮一監修、田中典子・津留崎毅・鶴田庸子・成瀬真理訳『異文化理解の語用論』（理論と実践）2004
- [18] 小泉保. 『入門 語用論研究 - 理論と応用 - 』研究社 2001
- [19] 任炫樹. 「日韓断り談話におけるポジティブ・ポライトネス・ストラテジー」『社会言語科学』6-2号. 2004
- [20] 元智恩. 「意味公式で分析した日本語と韓国語の断り」『日本語文学』日本語文学會. 2000
- [21] 荒巻朋子. 「アメリカ人と日本人の断り表現の比較」『長崎大学留学生センター紀要』7, 105-137, 長崎大学留学生センター. 1999
- [22] 滝浦真人. 『ポライトネス入門』研究社. 2008
- [23] 権英秀. 「断り」表現の分析方法 現代社会文化研究. 2008
- [24] 井出祥子. 『わきまへの語用論』大修館書店 2006
- [25] 小泉保. 『言外の言語学 - 日本語語用論 - 』三省堂. 1990
- [26] 浅羽亮一監修、田中典子・津留崎毅・鶴田庸子・成瀬真理訳『語用論入門ー話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味』研究社 1998
- [27] 権英秀. 「断りから見た日・韓両言語の比較研究」新潟大学修士論文. 2005
- [28] 横山杉子. 日本語における「日本人の日本人に対する断り」と「日本人のアメリカ人に対する断り」の比較ー社会言語学のレベルでのフォリナートークー『日本語教育』81号. 1993
- [29] 森山卓郎. 「断りの方略」『言語』19(8), 59-66, 大修館書店. 1991
- [30] 高嵩. 「詫び」と「感謝」の言語行動の中日対照研究. 解放軍外国語学院 2005
- [31] 三宅和子. 「日本人の言語行動パターンーウチ・ソト・ヨソ意識ー」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』第9号 筑波大学 1994
- [32] 任炫樹. 「日韓両言語における断りのストラテジー - 言語表現の違いとストラテジー・シフトを中心に - 」『ことば』24, 60-77, 現代日本語研究会. 2003
- [33] 元智恩. 日韓の断わりの言語行動の対照研究 筑波大学博士論文

## 付録1：「断り」言語行為のアンケート調査

私は今、「断り」の言語行為に関する修士論文を執筆しています。日本人が「断り」の場面で、どのような言い方をするのか調べるため、このアンケート調査を行っています。お忙しいところ恐れ入りますが、以下の質問にお答えいただき、収集者までお渡し下さい。なお、この調査によって得られた情報は本調査以外の目的に使用することはありません。どうぞよろしくお願いいたします。

大連海事大学外国語学院 蔡二勤

まずご自身のことについてお伺いします。

1. 性別            男        女
2. 年齢            \_\_\_\_\_才
3. 学年            \_\_\_\_\_
4. 出身地        \_\_\_\_\_都道府県

場面Ⅰ あなたは相手の家族の一員です。あなたは家族からスーパーに行って味噌やキムチなど買ってくるように要求されました。でも、あなたはその要求に応じられません。最大限、自分が日常生活で使っている言葉遣いで工夫しながら、答えてください。

ご家族からの要求：

相手：帰る途中、味噌やキムチなど、買ってきてくれない？

返事（断り）： \_\_\_\_\_

ご家族に断る時の心理困難度

全く難しくない	あまり難しくない	やや難しい	大変難しい
1	2	3	4



場面Ⅱ あなたは相手と親しいグループの一員です。あなたは親しいグループの一人から引越しの手伝いをしてもらうように要求されました。でも、あなたはその要求に応じられません。最大限、自分が日常生活で使っている言葉遣いで工夫しながら、答えてください。

親しいグループからの要求：

相手：今週の土曜日に、引越しをするから、暇なら、手伝ってくれない？

返事（断り）： \_\_\_\_\_

親しいグループに断る時の心理困難度

全く難しくない	あまり難しくない	やや難しい	大変難しい
1	2	3	4

場面Ⅲ あなたは相手とは親しくないグループにいます。あなたは親しくないグループの一人から引越しの手伝いをしてもらうように要求されました。でも、あなたはその要求に応じられません。最大限、自分が日常生活で使っている言葉遣いで工夫しながら、答えてください。

親しくないグループからの要求：

相手：明日の夜、パーティーをするので、よかったら家に来ませんか。

返事（断り）： \_\_\_\_\_

親しくないグループに断る時の心理困難度

全く難しくない	あまり難しくない	やや難しい	大変難しい
1	2	3	4

場面Ⅳ 町で、あなたは知らない人からアンケートをしてもらうように要求されました。でも、あなたはその要求に応じられません。最大限、自分が日常生

活で使っている言葉遣いで工夫しながら、教えてください。

知らない人からの要求：

相 手：すみません、アンケートをお願いします。

返事（断り）： \_\_\_\_\_

---

知らない人に断る時の心理困難度

全く難しくない	あまり難しくない	やや難しい	大変難しい
1	2	3	4

ご協力くださいまして、誠にありがとうございます。

## 付 2: 中国大学生为对象的问卷调查

1. 你的家人(爸爸妈妈)让你去帮忙买调料。你不想去该怎么拒绝呢!

----回来的时候,到超市买袋调料。

回答: \_\_\_\_\_

拒绝家人时心理困难度

一点不觉得困难	不怎么困难	有点难度	非常为难
1	2	3	4

2. 你的同学(关系很好)要换寝室,想让你帮忙。你怎么拒绝。

----这个星期六我换宿舍,你有空的话,帮我搬搬东西好吗?

回答: \_\_\_\_\_

拒绝关系亲近的人时心理困难度

一点不觉得困难	不怎么困难	有点难度	非常为难
1	2	3	4

3. 你的同学(关系一般)邀请你去参加 party, 你怎么拒绝。

----明天晚上,我家有个 party,方便的话你也一起来吧。

回答: \_\_\_\_\_

拒绝关系一般的人时心理困难度

一点不觉得困难	不怎么困难	有点难度	非常为难
1	2	3	4

4. 陌生人拜托你作份问卷调查。你一般怎样拒绝。

----你好,打扰一下,能帮忙作份问卷调查吗?

回答: \_\_\_\_\_

拒绝陌生人时心理困难度

一点不觉得困难	不怎么困难	有点难度	非常为难
1	2	3	4

## 謝 辞

本稿は指導教官である李延坤教授にご指導いただき完成したものです。衷心よりお礼申し上げます。先生はこの論文の題目の選定から原稿の添削まで、終始懇切、丁寧な指導をしてくださいました。先生の学問に対する熱心且つ真摯な姿にも深く感銘致しました。

また、日々大学院でのした研究生活でお世話になっている刘志荣先生、朱麗穎先生、樊慧穎先生、孫艶華先生、張蕾先生、邢文柱先生からも多くのご指導を賜りました。楚煥煥さんたち同級生にご協力もしてもらいました。心から感謝いたします。

また執筆にあたり、日本人の友人である加野房枝さんから貴重な意見をいただきました。夫から大きな支持を与えてもらいました。重ねて感謝致します。

## 研 究 生 履 历

姓名	蔡二勤
性别	女
出生日期	1978年10月12日
获学士学位专业及门类	文学
获学士学位单位	河南师范大学
获硕士学位专业及门类	文学
获硕士学位单位	大连海事大学
通信地址	辽宁省大连市凌海路1号
邮政编码	116026
电子邮箱	sainikin@gmail.com